

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◇結果について◇

今年度は国語と数学の他に理科も実施されました。3教科とも全国と比較し平均正答率は約1ポイント上回りました。

国語では「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くこと」「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて描写を基に捉えること」が良好な状況にあり、授業における話すこと・書くことの活動や、学校夢づくりプロジェクトでの詩作の取組がその要因として考えられます。一方、「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」など国語への関心等が全国よりも低く、学習内容と普段の生活を結び付けたり読書に親しむ時間を増やしたりする必要があります。

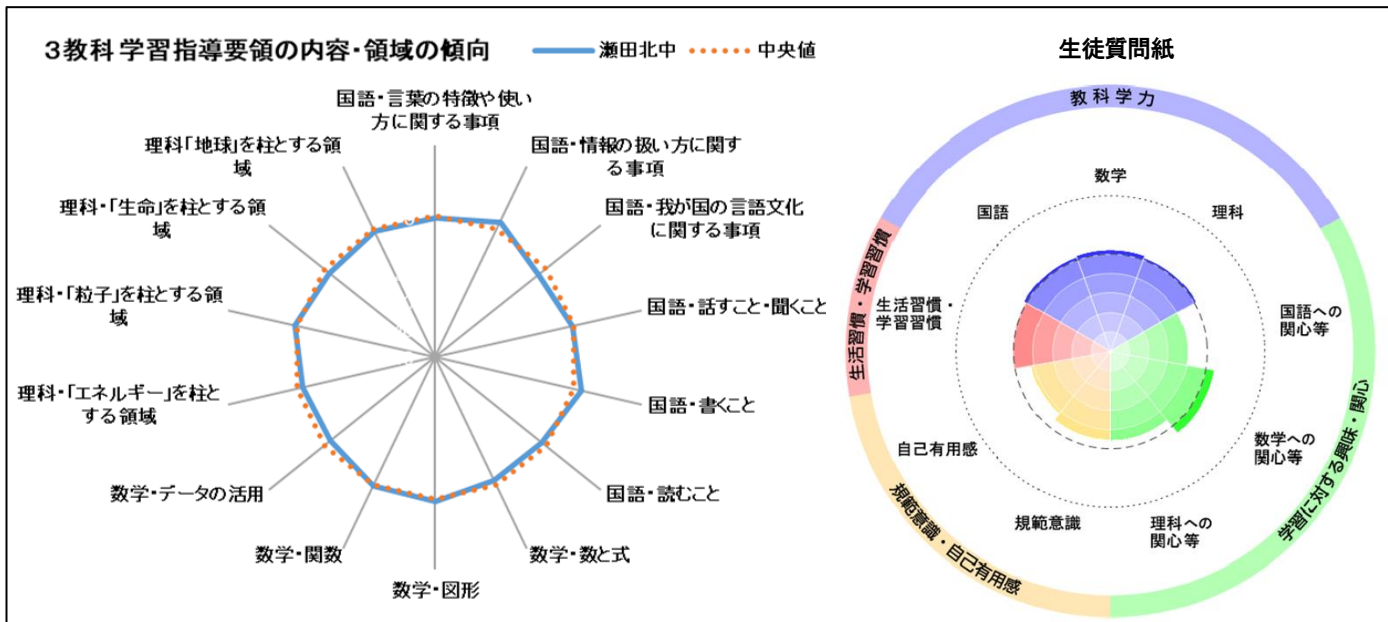
数学では「筋道を立てて考え事柄が成り立つ理由を説明すること」が良好で、数学への関心等も高い状況にあります。「数と式」の領域では、簡単な連立二元一次方程式はよく解けていましたが、自然数を素数の積で表すことについては全国を大きく下回ったことから、基礎・基本の繰り返しが重要であることが分かります。

理科では、4領域とも概ね全国の平均正答率と変わりませんでした。その中で、知識・技能を問う問題では全国を上回りましたが、思考・判断・表現を問う問題では全国を下回る結果となり、身に付けた知識及び技能を活用し、科学的な見方、考え方で分析し表現することに課題があると思われます。

生徒質問紙からは、昨年度と同様に自尊感情や規範意識が弱かったり、地域行事への参加が少なかったりしました。今年度から学校運営協議会、各自治会の協力のもと「地域Ranger活動」を始動しました。生徒が地域住民の一員として地元のために活躍・貢献することにより、自己有用感が高まったり地域の方々とのふれあいを大切にしたりすることが期待できます。

◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み(成果が現れている項目)、内側の場合は弱み(改善を検討する項目)と捉えることができます。

◇指導の充実に向けて◇

- ① 瀬田北のあたりまえ「あいさつ・礼儀・身だしなみ・思いやり」を励行する。【望ましい生活習慣、規範意識の育成】
- ② 対話的な学習活動を充実させ、互いに認め合える集団作りを進める。【問題解決力、自尊感情、自己表現力の育成】
- ③ 「できる」「わかる」のある授業を実現する。【学習に対する興味・関心・意欲の向上】
- ④ デジタル教科書、タブレットなど、ICT機器を活用する。【学習情報の充実】